



「夏までに
160キロを
出したい」

新井 瑛太

Eita Arai

滝川高(3年)・投手、中堅手・右投左打・180cm82kg

伸びしろ大の高次元二刀流

1年夏からミート力に長けた、対応力抜群の打撃に惚れ惚れさせられた。1年秋に開始した投手としても最速151キロをマークし、驚異の成長曲線を描いている魅惑の二刀流プレーヤー。高校ラストイヤーに向けて、冬場に取り組んできたこと、投打の両面で現在意識していること、プロへの思いなどを聞きたくて、取材依頼を出した。

Profile

兵庫県神戸市出身。小学1年時に「小東山少年団野球部」で野球を始める。多聞東中では明石ボーイズに所属し、主に外野手としてプレー。滝川高では1年夏に3番・中堅手の座をつかみ、1年秋から投手に本格転向。2年夏の兵庫大会2回戦では神戸国際大付高に惜敗を喫した。最速151キロ。変化球はスライダー、カーブ、フォークを投げ分ける。遠投110メートル、50メートルタイムは6秒2。高校通算14本塁打(3月5日時点)。

魅惑の二刀流との対面

——高校野球生活、ここまでを振り返っていかがですか？

新井 まったく予想していません。高校野球人生になっていきました。野手として入部した自分が、近藤洋輔監督に肩の強さを買われて1年秋から投手を開始し、150キロ台のボールを投げられるようになるなんて、入学時には想像すらできなかった。正直、今の状況にびっくりしています。

——明石ボーイズ時代に投手経験はなかった？

新井 なかったです。同学年には絶対的エースの福田拓翔(東海大相模高)がいましたし、自分自身も体が小さく、細かった。投手を

やりたいなんて、とても思えなかったですね。

——中学時代は体が小さかった。新井 中1で150センチ。中3の夏で165センチ52キロくらいでした。最上級生になって外野のレギュラーを獲りましたが、パワーがなく、主な打順は2番か9番。小技を絡めながらつなぎの打撃に徹するような選手で、ホームランは1本も打てなかった。でも、中学野球を引退してから身長がグッと伸びたんです。食事とトレーニングで体重も増え、高校入学時には172センチ69キロくらいになっていた。今までと同じように打つても打球が面白いように飛ぶようになったんです。

——1年夏にいきなり3番に座り、